西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業

国の共通政策課題（文化的・学術的な資料等の保存等）の予算配分を受けて，本年度より「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」を開始した。

センターでは，所蔵資料の保存事業を通じて蓄積された西洋古典資料の保存と修復に関する知識を，講習会等によって他機関と積極的に共有してきた。今回の事業は，こうした実績を踏まえて，(1) 西洋古典資料の保存について中核的な役割を果たす人材を育成する実務研修事業，(2) 所蔵資料の保存修復事業，(3) 全国の大学等研究機関における西洋古典資料の所蔵・保存状況の実態調査を同時並行的に進めることで，国内における西洋古典資料の保存水準の全体的な底上げを目指すものである。

今年度の実績として，国立国会図書館，北海道大学，慶應義塾大学，大阪大学の 4 機関から研修生を受け入れ，それぞれ 1 か月前後の実務研修を行った。

国際ワークショップ「Rare Materials, digitization, and the role of curators（貴重資料・デジタル化・キュレータの役割）」

「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」のプレイベントとして，2016 年 2 月 12 日（金），附属図書館会議室で国際ワークショップを開催した。当日は，オックスフォード大学ボドリアン図書館のピップ・ウィルコックス氏と，床井啓太郎・センター助手が，それぞれオックスフォード大学と一橋大学の実例を紹介したのち，モノとしての資料の収集・保存・管理を担うキュレータ（学芸員・図書館員）は，デジタル化とどのような関係を築くかが議論された。来場者は 46 名だった。アンケートには，「デジタルの長所と短所が理解できた」，「古典資料センターの過去・現在・未来の取り組みを概観できて興味深かった」といった意見が寄せられた。

ひらめき☆ときめきサイエンス

平成 24 年度から毎年行ってきた中・高校生向けセミナー「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」（日本学術振興会助成事業）を本年も実施した。実施代表者は福島知己・センター助手。開催日は 9 月 19 日（月祝）。「西洋社会科学文献の奥深さや書物の修復・保存の重要性を伝える」という従来の企画目的を継承しつつ，さらにわかりやすく有益なものにするため，本年度は「羊皮紙」というテーマを設定し，ふだん見慣れているパルプ紙とは違う素材に触れてもらうことで，本の世界を新たな視点で見てもらうきっかけにしてもらった。当日は，中学生 5 人，高校生 5 人，付添者 6 人のあわせて 16 人が，朝 9 時半から，社会科学古典資料センター書庫および隣接する附属図書館を見学し，その後，昼食をはさんで，センター貴重書保存修復工房スタッフの指導による保存箱の作成や製本実習，ページ修理の実習など，午後 4 時の修了式までさまざまな演習に参加した。

第 17 回西洋古典資料保存講習会

下記の内容で，6 月 29 日（水）から 7 月 1 日（金）まで 3 日間開催した。全国の国公私立大学図書館等から 10 名が参加して，実習を中心とする演習を行った。

1．保存計画のための材料と環境　　増田勝彦（元昭和女子大学大学院教授）
2．劣化調査と保存計画　　増田勝彦
3．災害から資料を守り，救うために
眞野節雄（日本図書館協会資料保存委員会委員長）
4．資料保存と製本構造，調査票の記入・活用，本のクリーニング，革装本の手入れ，書見台の製作，保存製本，保護ジャケットの製作，修理用和紙の染色について，ページ修理の基礎，見返し・表紙角の修理，封筒フォルダーの製作，保存箱の制作
岡本幸治（製本家・書籍修復家）

第 36 回西洋社会科学古典資料講習会

下記の内容で，11 月 16 日（水）から 11 月 18 日（金）まで 3 日間開催し，全国の国公私立大学図書館・専門図書館等から 28 名が参加した。

古典研究

⑴　スイス人法律家の書簡からみる 20 世紀初頭の日本法学界
小沢奈々（横浜国立大学教育人間科学部准教授）

⑵　ヨハネス・アルトゥジウスと共生の『政治学』教本 ― ギールケ文庫の初版（1603 年）を手に取って
小倉欣一（早稲田大学名誉教授）

⑶　英文学の正典と受容 ― 文学観光の事例から
吉野由利（学習院大学文学部准教授）

書誌学

⑴　図書館員のための書誌学入門 ― 分析書誌学の基礎と記述書誌の読み方
安形麻理（慶應義塾大学文学部准教授）

⑵　西洋古典籍と大学図書館
中井えり子（元名古屋大学附属図書館研究開発室研究員）

⑶　西洋古典資料の目録作成
床井啓太郎（一橋大学社会科学古典資料センター専門助手）

⑷　目録作成実習
福島知己（一橋大学社会科学古典資料センター専門助手）

保存・修復

⑴　環境と材料 ― 紙資料の保存
増田勝彦（元昭和女子大学大学院教授）

⑵　西洋古典資料をもっと知るために
岡本幸治（製本家・書籍修復家）

社会科学古典資料センター見学（書庫・所蔵資料・貴重書保存修復工房）

日誌（2016 年 1 月～12 月）

2 月 12 日　国際ワークショップ「Rare Materials, digitization, and the role of curators（貴重資料・デジタル化・キュレータの役割）」（附属図書館と共同で主催）開催

3 月 31 日　一橋大学社会科学古典資料センター年報第 36 号発行

3 月 31 日　Study Series No. 72：玉田敦子「18 世紀フランスにおけるミソジニーとナショナリズム」発行

3 月 31 日　山﨑耕一・社会科学古典資料センター特任教授が任期満了により退職

5 月 14 日　第 11 回一橋大学ホームカミングデー記念展示

6 月 1 日　屋敷二郎・大学院法学研究科教授が社会科学古典資料センター教授（兼務）に就任

6 月 29 日～7 月 1 日　第 17 回西洋古典資料保存講習会開催

7 月 31 日　2016 オープンキャンパス特別資料展示

9 月 19 日　ひらめき☆ときめきサイエンス「本を残す 本を伝える ― 書籍の保存と修復」開催

11 月 16 日～18 日　第 36 回西洋社会科学古典資料講習会開催

12 月 1 日　山部俊文・大学院法学研究科教授が社会科学古典資料センター長に再任される

利用状況（2016 年 1 月～12 月）

開館日数　229 日

来館者数　54 人

（学内）19 人

（学外）35 人

利用冊数　97 冊

文献複写申込受理件数　30 件

複写冊数　49 冊

見学者数　153 人